

**長崎県公立大学法人の令和4事業年度
に係る業務の実績に関する評価結果**

令和5年9月

長崎県公立大学法人評価委員会

目 次

長崎県公立大学法人の令和4事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

1. 全体評価	1
2. 項目別評価	
(1) 大学の教育研究等の質の向上	3
(2) 業務運営の改善及び効率化	5
(3) 財務内容の改善	5
(4) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供	6
(5) その他業務運営	6

◎項目別評価の結果

項 目	事項数	I	II	III	IV	III以上(%)
(1) 大学の教育研究等の質の向上	40	0 (0)	3 (3)	23 (23)	14 (14)	92.5
(2) 業務運営の改善及び効率化	7	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	100.0
(3) 財務内容の改善	3	0 (0)	0 (0)	2 (2)	1 (1)	100.0
(4) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供	4	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	100.0
(5) その他業務運営	2	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	100.0
合 計	56	0 (0)	3 (3)	38 (38)	15 (15)	94.6

注1) () 内の数字は、法人の自己点検・自己評価の結果

IV…「年度計画を上回って実施している」
 III…「年度計画を順調に実施している」
 II…「年度計画を十分に実施できていない」
 I…「年度計画を実施していない」

長崎県公立大学法人の令和4事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

長崎県公立大学法人評価委員会は、「長崎県公立大学法人の評価の基本方針」「長崎県公立大学法人の各年度終了時の評価に係る実施要領」「第3期中期計画・年度計画の評価基準」に基づき、長崎県公立大学法人の令和4事業年度に係る業務の実績に関する評価を行った。

1 全体評価

第3期中期計画期間の最終年度となる令和4年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響により実習やインターンシップで学生を派遣できない状況が一部発生したが、これまでの取組を踏まえた改善を加え、学内実習やグループワーク、発表などにおいてオンラインを活用するなど、積極的に教育、研究に取り組むとともに、地元企業等との共同研究の推進など、地域貢献にも取り組んでいる。

学生の自主的な地域活動に対する支援については、学生の自主性、創造性を十分に発揮できる機会を提供するため、「やるばいプロジェクト」において5件の事業を採択し経済的な支援も含めたサポートを行っている。佐世保の新たな魅力を知ってもらうため、市民から佐世保市内の写真を収集し、モザイクアートを制作した「させぼんど・モザイクアート」は、佐世保駅をはじめとして、市内各地で展示されるなど、人と人が繋がれるきっかけを増やし、地域活性化につながったことを評価する。この取組は新聞等でも取り上げられるなど、地域からも注目される取組となっている。

また、大学施設を積極的に地域に開放することについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止及び重症化予防のため、前年度に引き続き、大学を新型コロナワクチンの接種拠点として県民に開放し、佐世保校では佐世保市、佐世保商工会議所、佐世保市医師会と、シーボルト校では長与町、西彼杵医師会と連携し、学生・教職員のみならず、地域住民のワクチン接種者の拡大に寄与し、地域の感染拡大防止に貢献したことを評価する。

さらに、共同研究及び受託研究については、民間企業、研究機関、自治体等との連携を深めることでニーズを把握し、第3期中期計画期間中最多となる研究数となっており、産学官連携の取組が推進されていることを評価する。

その他、教員の個別指導や学生の意識醸成などにより各学科で掲げる高い目標を多くの学科で達成したことや就職率、地域の政策課題に関する研究活動、研究論文や学会発表数、公開講座・学術講演会における受講者の満足度向上、外部資金の獲得について、計画を上回って実施していることを評価する。

しかしながら、県内就職率を向上させる目標については、県内就職者数は前年度から

増加したものの、率としては減少していること、学生に専門知識や技術、外国語運用能力を早期に修得させるための、3年修了時までには9割以上の学生が卒業要件を達成する目標については、情報システム学科及び情報セキュリティ学科で計画期間中初めて目標を達成し前年度を上回る成果が見られるものの、全体では目標達成には至っていないことから、要因分析を通して具体的な方策を検討し、より効果的な取組が実施されることを期待する。

なお、県内就職率については、一部の学科（情報システム学科、看護学科）では、44%の目標値を達成していることから、県内生・県外生の割合や男女の割合など学科の状況や学生のニーズに応じたアプローチなど、目標達成に向けての取組を計画的に行うことも必要である。

評価委員会の全体評価としては、90%を超える事項（53項目）について年度計画を達成（評価Ⅲ及びⅣ）しており、第3期中期計画期間最終年度となる令和4年度の事業は着実に実施されていると判断するが、未達成となっている事項が3項目あり、これらの項目については引き続き改善を図るとともに、高校生のみならず県内企業など多様な主体から「選ばれる大学」、地方創生や地域活性化に資する「長崎の核となる大学」を目指し、理事長・学長のリーダーシップのもと、教職員一体となり、第4期中期計画の目標達成につながるよう取組を着実に進めることを期待する。

2 項目別評価

(1) 大学の教育研究等の質の向上

- ① 教育に関する目標
- ② 研究に関する目標
- ③ 地域貢献に関する目標

本項目については、年度計画の記載40事項中37事項を「年度計画を順調に実施している(Ⅲ)」又は「年度計画を上回って実施している(Ⅳ)」と認め、進行状況は「おおむね計画通り進んでいる」と判断した。

令和4年度の実績のうち、下記の事項を特に評価する。

- 学習意欲のある学生に対する高い目標については、経営学科、公共政策学科、実践経済学科、情報システム学科、情報セキュリティ学科において、難易度の高い資格の取得や学会・研究会・シンポジウムへの投稿・発表など高い目標を達成し、看護学科では国家試験合格率100%を達成したことを評価する。(3-2)
- 学生の自主的な地域活動に対する支援については、学生の自主性、創造性を十分に発揮できる機会を提供するため、「やるばいプロジェクト」において5件の事業を採択し経済的な支援も含めたサポートを行っている。佐世保の新たな魅力を知ってもらうため、市民から佐世保市内の写真を収集し、モザイクアートを制作した「させぼんど・モザイクアート」は、佐世保駅をはじめとして、市内各地で展示されるなど、人と人が繋がるきっかけを増やし、地域活性化につながったことを評価する。この取組は新聞等でも取り上げられるなど、地域からも注目される取組となっている。(6-3)
- 学部毎に定める就職率の目標については、キャリアコンサルタント等による個別相談会や3年次生向け就職ガイダンス、各種イベント等、きめ細かな就職支援や企業訪問に組織的に取り組むなど、教職員一体となって学生のキャリア支援を行い、国際社会学部、情報システム学部、看護栄養学部における100%をはじめ、達成水準を上回る就職率を達成したことを評価する。(7-1)
- 県や市町、企業等のニーズにあった研究の取組については、協定締結自治体や長崎県議会との連携事業の実施に加え、五島市における健康寿命延伸に関する調査研究の実施や学長裁量教育研究費における研究の推進、学長プロジェクトで採択した各プロジェクトにおける研究成果の学会発表や論文集の出版など、県や市町等のニーズを反映した研究に積極的に取り組み、実施結果の情報発信を行っていることを評価する。(11-1)

- 教員の研究論文数、学会発表数及び著書数については、各教員が長期研究計画書を作成し、計画的に研究に取り組み、489件の実績となっており、引き続き達成水準を上回っていることを評価する。(12-1)
- 他大学等との共同研究や学術交流等の推進については、「長崎県立大学研究シーズ集」を関係者へ配布し学外に情報発信を行ったほか、情報セキュリティ産学共同研究センターの供用開始に先駆けて、センター内の共同ラボ入居予定企業との共同研究を開始するなど共同研究の取組が推進されていることを評価する。(13-1)
- 共同研究及び受託研究の推進については、企業等からの依頼に応え、地域連携センターにおけるコーディネート業務を通して、大学が持つシーズとのマッチングを図り、地方自治体や他大学、企業等との研究が、第3期中期計画期間中最多となる51件の実績となっており、産学官連携の取組が推進されていることを評価する。(14-1)
- 公開講座・学術講演会の開催及び講座内容の充実については、15講座を開催するとともに、受講者アンケートを実施し、参加者のニーズに応えることなどにより、受講者の満足度が向上していることを評価する。(16-1)
- 大学施設を積極的に地域に開放することについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止及び重症化予防のため、前年度に引き続き、大学を新型コロナワクチンの接種拠点（佐世保校、シーボルト校）として県民に開放し、佐世保校では佐世保市、佐世保商工会議所、佐世保市医師会と、シーボルト校では長与町、西彼杵医師会と連携し、学生・教職員のみならず、地域住民のワクチン接種者の拡大に寄与し、地域の感染拡大防止に貢献したことを評価する。(16-2)

令和4年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

- 3年修了時までには9割以上の学生が卒業要件を修得するという目標については、各学科において学生にその意義を認識させるとともに、個別面談や試験対策講座、模擬試験の実施、また、受験状況を教員間で連携して管理し指導に反映するなど卒業要件の早期取得に取り組んだものの、目標未達成となっている。情報システム学科及び情報セキュリティ学科において、第3期中期計画が始まって以降、初めて目標を達成し、その他5学科中3学科で8割以上を達成するなど前年度に比べ進捗はみられるものの、教職員、学生のさらなる努力により、全7学科において、卒業要件の早期取得を達成する取組を進めることを期待する。(3-1)
- 管理栄養士国家試験において国公立大学平均以上の合格率を確保することについては、国公立大学平均を下回る結果となっており目標を達成できていない。栄養健

康学科では、管理栄養士国家試験対策委員会で学生に対する支援を検討し、模擬試験や個別面談の実施、「学習記録表」を活用した指導のほか、成績不振者と判断する対象範囲を広げ強化学習支援を実施し、さらに、国家試験対策コーナーの参考図書や問題集を充実させるなどの取組は評価できるものの、3年連続で目標を達成できていないことから、支援効果の検証を行いながら学生をサポートするなど、合格率向上対策に取り組んでいくことを期待する。（3-2）

- 県内就職率については、32.7%と前年度より0.5ポイント減少している。県内就職率向上においては、学生の希望やスキルを生かせる県内企業の拡充も重要な課題であるが、大学においても、県内企業による合同企業説明会等の開催による県内企業等の魅力を伝える取組、令和4年度から配置したキャリア支援統括マネージャーの活用などによる県内企業情報の収集や企業と学生のマッチング等の取組、高い県内就職率が見込める県内高校生への情報発信など、より実効性のある取組を期待する。（8-1）

（2）業務運営の改善及び効率化

- ① 組織運営の改善に関する目標
- ② 人事の適正化に関する目標

本項目については、年度計画の記載7事項すべてを「年度計画を順調に実施している（Ⅲ）」と認め、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断した。

令和4年度の実績のうち、下記の事項を特に評価する。

- 優秀な職員の確保及び男女共同参画の推進については、大学の理念・目的を実現するため、教職員の適材適所の登用を進め、副学長4名中3名を女性教員から登用するなど男女共同参画の推進に取り組んでいることを評価する。（22-3）

（3）財務内容の改善

- ① 外部資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目標
- ② 効率的な運営に関する目標

本項目については、年度計画の記載3事項を「年度計画を順調に実施している（Ⅲ）」又は「年度計画を上回って実施している（Ⅳ）」と認め、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断した。

令和4年度の実績のうち、下記の事項を特に評価する。

- 科学研究費補助金等の外部資金の獲得については、採択件数及び金額ともに達成水準を上回ったことを評価する。外部資金の獲得は、大学の研究の質の向上につながるものであり、今後も引き続き、研究の質の高度化を図っていくとともに、外部資金の獲得に努めていくことを期待する。（24-1）

（４）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供

- ① 評価の充実に関する目標
- ② 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

本項目については、年度計画の記載４事項すべてを「年度計画を順調に実施している（Ⅲ）」と認め、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断した。

令和４年度の実績のうち、下記の事項を特に評価する。

- 戦略的な広報活動については、学生の視点を取り入れた広報活動を展開するため、学生広報スタッフと協働し大学ホームページや SNS を活用した情報発信を行うとともに、積極的に活動を行っている学生やメディアなどで注目を浴びた卒業生を取材し記事を掲載するなど、新たなコンテンツづくりに努めていることを評価する。また、大学案内や大学広報誌「clover」の発刊及び県内外の高校等への配布などの取組を進めており、今後も大学の魅力や活動を県民に広く伝えるため、積極的な情報の発信を期待する。（28-2）

（５）その他業務運営

本項目については、年度計画の記載２事項すべてを「年度計画を順調に実施している（Ⅲ）」と認め、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断した。